

意見発表者と一般意見聴取試行の会に寄せられた意見

目次

- 1 発表候補者選出までの流れ …………… p. 1
- 2 意見発表者および意見の要旨 …………… p. 1
- 3 意見発表者以外の方から本会に寄せられた意見 …………… p. 7

1 発表候補者選出までの流れ

- ・7/31～8/18 大阪開催分についての広報、意見発表者募集
- ・8/19～8/29 琵琶湖部会・淀川部会委員有志にて、意見発表者を選定。
意見発表者への発表依頼等
- ・8/30 「これからの琵琶湖と川とダムを考える若者討論会 3」開催

2 意見発表者および意見の要旨

2.1 意見発表者

意見発表者は以下の通り。

表 琵琶湖部会・淀川部会 一般意見聴取試行の会における意見発表者一覧

	氏名	所属	意見の要旨の記載ページ
1	安東 尚美氏	流域調整室	p.2
2	中森 藤雄氏	滋賀県大津市在住	p.3
3	酒井 研一氏	高時川の明日を考える住民大会実行委員会委員長 湖北土地改良区理事長	p.4
4	平山 紘一郎氏	大阪・水かいどう 808 事務局長	p.5
5	岡内 勝次郎氏	大阪淀川リトルリーグ 事務局長	p.6

2.2 意見の要旨

次ページ以降を参照。

意見発表者氏名	安東 尚美氏
所属団体名等	流域調整室

《 ご意見の概要 》

前々回、天ヶ瀬ダム再開発事業について意見を述べさせていただきましたが、直前の流域委員会で配布された資料が当日机の上に置かれており、ホームページを検索しても載っていなかったことに強い不満を感じました。森林や内湖復活、土地利用規制などは非現実的と、否定する資料を既に用意していたのに、それを見ないで発表してもらおうとされたように感じました。

お陰で、まとまりのない話になってしまったことをお詫びします。

その後、宇治市民防災の会に参加し、現在における検討の進行状況について、琵琶湖、淀川両事務所の方を交えて意見を伺うことができました。

「琵琶湖から流出河川は宇治川一本だけで、洪水には、当初は琵琶湖の水位が上がることで下流の浸水被害を防止できるが、出水が収まったらできるだけ早い時期に下流へ放流することで琵琶湖沿岸の浸水を防止したい」「宇治川への流出量を調節する南郷洗堰ができる前、明治時代に琵琶湖沿岸は大洪水に見舞われた」「水位観測点が洗堰近くにあり、宇治川への流出量の影響を受けるので、最近では琵琶湖岸5ヶ所に自動水位計測装置を設けて平均している」辺りは分かるのですが、次の点が説明不足だと感じました。

1. 現在の天ヶ瀬ダム再開発計画は、現行の $900\text{m}^3/\text{s}$ に加えてトンネルで $600\text{m}^3/\text{s}$ 、合計 $1500\text{m}^3/\text{s}$ をダム下流に流す計画となっているが、その時ダム流入量も $1500\text{m}^3/\text{s}$ なのか？
2. 既存施設を活用した場合は、流下能力は何 m^3/s で、宇治川流下量は何 m^3/s となるか？
 宇治川流下量に応じた琵琶湖浸水の軽減効果は、いかほどのものか？
 利水目的の既存施設を治水に転用する場合に必要な費用はいくらか？
 鹿跳トンネルは何 m^3/s から必要になるのか？
 琵琶湖疎水を利用した場合、京都市内に浸水の影響は出ないか？

あまり日数がないですが、宇治防災の会でも述べたことであり、この意見を採用され、そちらであらかじめ回答を作成されている場合は、事前に送って下されば幸いです。

意見発表者氏名	中森 藤雄氏
所属団体名等	滋賀県大津市在住

《 ご意見の概要 》

大津放水路二期区間（盛越川～諸子川）の早期継続実施

大津放水路の整備方針として、浸水被害の軽減を図るため、一期区間同様二期区間についても都市機能や歴史資産が集積しており、浸水などによる被害が大きい流域であることから、二期区間も河川整備計画に明記され、引き続き継続実施すること。

大津放水路の整備にあわせ河川改修や雨水渠整備等の地域と一体となった、総合的な治水対策を実施するために、放水路全区間の早期完成を要望します。

意見発表者氏名	酒井 研一氏
所属団体名等	高時川の明日を考える住民大会実行委員会委員長 湖北土地改良区理事長

《 ご意見の概要 》

丹生ダム建設事業の必要性について

丹生ダム建設事業につきましては、昭和59年度の実施調布開始以来、幾多の経過を踏まえながら、高時川の治水対策をはじめ滋賀県が誇る琵琶湖の利水計画に沿った極めて重要な事業であると位置付け、高時川流域の住民として本事業の早期完了を願ってきたところであります。特に高時川と姉川の合流点より琵琶湖までの間においては極端な天井川となっており、ひとたび洪水に見舞われると堤防の決壊により家屋は流され、田畑は荒廃するという事で、我々の先人、先輩は今日まで非常な苦勞を強いられてきた。

丹生ダム建設事業も、着手以来今日まで工事用道路を中心に工事が進められ、平成16年の夏にはダム本体工事着手が目前となり、この本体工事完了をもって、ようやく地域住民が念願していた安全で安心な生活が営む事が出来るものと安堵していたものである。

しかしながら、河川法の改定に伴う河川整備計画策定におきまして、丹生ダム建設事業の見直し案が近畿地方整備局より示され、以降様々な議論が交わされる中で、計画策定までには未だ数年が必要とされ、その間本体工事には着手しないとの意向が示されてしまいました。

このことは、長年に亘り丹生ダム建設に協力してきた地域住民に配慮を欠いた決定であり極めて遺憾であります。それとともに洪水災害に対する不安を感じた先先の8月9日に台風10号の直撃を受けたわけであります。行政、地域住民併せ1,000人も人間が家を守るため、田畑を守るため、暮らしを守るため、昼夜を問わず必死の措置を講じました。私は当日現地に出向き、丹生ダム建設事業の必要性、早期完了の必要性を改めて強く感じた次第であります。8月30日の琵琶湖部会、淀川部会一般意見聴取試行の会において、改めて丹生ダム建設の必要性を強く説きたいと考えております。

意見発表者氏名	平山 紘一郎氏
所属団体名等	大阪・水かいどう 808 事務局長

《 ご意見の概要 》

意 見 要 旨

- テーマ 「都市河川の活性について」
- 現 状 都市河川の汚れ振りはひどいもの。阪神ファンの道頓堀川への飛びこみがなければ、まだまだ気づかずにいたのではないだろうか。この際、誰が飛び込んでも心配のない川にするには。
- 要 旨
- 1 . 昭和20年前後の川は、当時を知っている人達に聴くと水は澄み切り、道頓堀川も堂島川も東横堀川も飛びこんで泳いでいた。
 - 2 . わずか50年で様変わりしている。日本は戦後ゼロから出発のため、あらゆるところで無理をしていたから、環境という概念はなかった。その結果が高度成長という経済発展を遂げた。
 - 3 . 企業の公害問題から水質、大気、騒音といった規制がされ、期間はかかったが、現在では殆どがクリアーしている。
 - 4 . これからは、市民活動と各行政の行動にかかってくる。
 - 5 . 市民活動は市民の意識。川を自分のものと思い綺麗につかわしてもらおうこと。琵琶湖も30年ほど前の主婦の合成洗剤を使わないという活動から汚れの加速が止まった。
 - 6 . 各行政は下水道の対策の早期実施と川浚いの実施。
- 結 論 50年かかって汚れた自然の回復には50年掛ると言われている。元の川の美しさを取り戻すために、大阪府民全員で努力し、50年かかるものを少しでも短くしよう。

意見発表者氏名	岡内 勝次郎氏
所属団体名等	大阪淀川リトルリーグ 事務局長

《 ご意見の概要 》

皆様 ごぞんじですか、先日のテレビで映りましたヤンキーススタジアム松井秀喜選手と世界一に武蔵府中全日本リトルリーグ選手と握手……

テレビでごらんになりましたか。

大阪淀川リトルリーグ、シニアからも、いくたの選手が甲子園又幾人かはプロにいます。

中でも近鉄バッファローズ中村ノリは当チームから出たものです。

又、今回甲子園に於いて、PL 松本(四番バッター) ベスト4になった江の川上内(キャッチャー)も当リーグからです。

私達は高水敷多目的グラウンドに於て硬式野球しております。その多目的グラウンドが今、消えようとしています。

我々は淀川水系流域委員会の討論会を出席して淀川部会、琵琶湖部会等拝聴して、ダムのお話を聞きました。

しかし、下流のものにとっては、ダムは必要は有りません。

上流で自然をこわしてほしくないからです。

下流の住むものとしては、築堤された強固

高波対策、高潮対策をされることを望みます。

大都会の中にかず少ない自然があります。それが淀川です。幾多の人々が散歩、ジョギング、釣、サッカー、ゲートボール等を盛んにやっています。

しかし私どもグラウンドより上流において公園化されている所があります。

対岸も公園化されていま、外観はきれいに見えますが、中に入りますとホームレスが住み付き、野犬が群し、あしの長い所にU道路を造って有りますが外観から見えず、散歩するのも怖しいです。

又、心えのない人、飲食したあとの食ガラ、ペットボトル、カン、パック等が散乱しております。

夜間の散歩などは思いもつきません。犯罪の温床の様なところなる。

私達の周囲のグラウンドもけしてきれいとは言えません。しかし我々グラウンドを使用させてもらっている感謝の気持ちを込めて上流からのゴミ、上潮等ゴミが川辺に溜り(毎月第1日曜日、3日曜日)父兄、選手、監督、コーチ全員、シニアリーグと共に一斉清掃を実行しています。

又、目に付き次第清掃は義務づけます。

収集ゴミは国土省に処理してもらってます。

我々の淀川夜景美しい……大切に思い愛し使わして頂いています。

3 意見発表者以外の方から本会に寄せられた意見

意見発表者氏名	中川 治夫氏
所属団体名等	滋賀県神崎郡在住

《 ご意見の概要 》

淀川水系流域委員会 御中

8月30日開催の「これからの琵琶湖と川とダムを考える若者討論会」の案内をいただきありがとうございます。

「年齢制限はとくに設けておりません」と記載いただいておりますが、私は定年まで後数年と数えられる年齢でもありますし、当日は所用がありますので参加できませんが、川とダムのテーマについて、私の意見を述べさせていただきます。

私は淀川水系愛知川河川流域に住いています。台風接近時になると必ず永源寺ダムから放流され、台風による強風と豪雨、そして、ダムからの放流による増水で生きた心地がしません。河川流域に住いている人々は、なぜ、台風接近時に放流するのか、ダム管理者に対して不信感を持っています。

愛知川河川の永源寺ダムは利水ダムであることから常時貯水量を保たれ、台風時になると水量が急に増すことから、下流域が支流からの流入で洪水時であっても放流されません。

下流域は河道内の繁茂した竹林によって洪水疎通能を低下させています。繁茂した竹林によって堰き上げし水位を増して破堤しています。現に平成2年9月の台風19号による洪水災害は、台風接近時にダムからの放流と、下流域の河道内の繁茂した竹林が要因で起きています。

河道内の繁茂した竹林が河川管理者によって常に管理されていれば、河川流域の人々も少しは安心できるのですが、繁茂し雪の重みで折れた竹等で人が歩くことができない状況で放置されていれば、不安が増すばかりです。

現在、下流域の狭窄部を拡幅する河川改修工事が行なわれていますが、河道内の繁茂した竹林は管理されず放置されている状態です。狭窄部の拡幅も必要ですが、治水上、河道内の繁茂している竹林を整備して洪水疎通能を高めることが急務ではないでしょうか。

治水ダムと異なり、利水ダムの場合は、下流域の河道内の管理が重要です。河道内の繁茂する竹林が管理されないで、洪水時に繁茂している竹林によって堰き上げして水位が増して越流によって破堤するなど洪水災害を生じることになれば、これは自然災害ではありません。

利水ダムは、常時貯水量を保つことから、台風などの豪雨があれば、放流しなければなりません。放流すれば下流域に洪水災害を与える危険性があります。とくに、下流域

の河道内の管理を怠れば危険性は増します。よって、利水ダムが上流にある場合は、ダムと河川の管理を一元化して、河川流域に住いする住民に対して毎年河川管理状況の報告を義務つけることが必要と考えます。